

STAGE+を楽しむ(15)(HP 収載)

—シューベルトの鱒—

1. 始めに

前報(14)に引き続き、STAGE+の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、リサ・パティアシュベリとその仲間たちによるシューベルトのピアノ 5 重奏曲「鱒」の演奏を選びました。

作品の概要と演奏者は次のとおりです。

Lisa Batiashvili might be one of the world's great reigning violin virtuosos, but she is also a passionate chamber musician. At Schlosshotel Elmau a centre for performances of classical music at the highest level since its opening in 1916 the Georgian violinist joins some familiar instrumentalists for performance of Schubert's Trout Quintet, whose fourth movement is a set of variations on Schubert's famous song of the same name. This predominantly sunny and cheerful and deceptively technically demanding work cannot help but lift the spirits, especially in such a commanding performance as this.

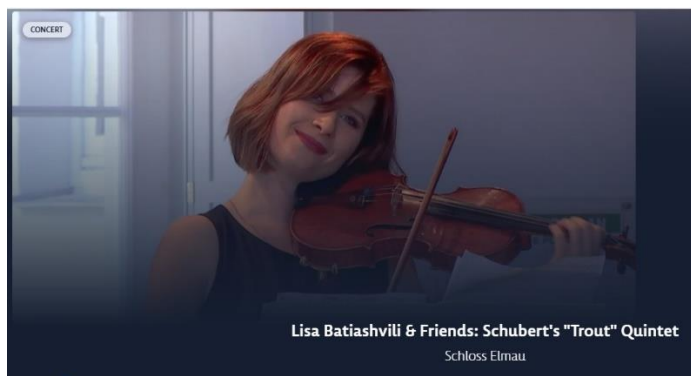
Soloists:

Lisa Batiashvili (Violin), Nino Gvetadze (Piano), Sebastian Klinger (Cello),
Matthew McDonald (Double Bass), Lawrence Power (Viola)

収録曲は次のとおりです。

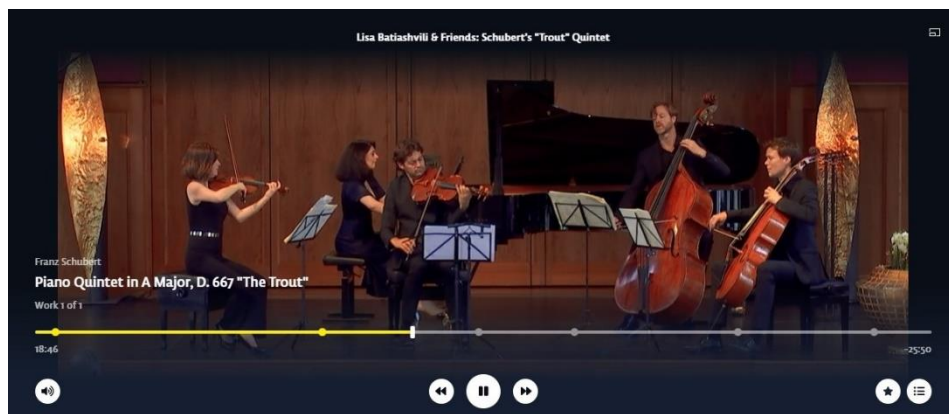
Franz Schubert

Piano Quintet in A Major, D. 667 "The Trout"



3. 試聴の経過

収録は2020年の6月で、場所はSchlosshotel Elmauとありますから、お城を改造したホテルのようなところでしょうか。



スイッチングハブ、PC および DAC に仮想アースを適用したのち、LAN ケーブル、USB ケーブル、SDIF 伝送のクロックケーブルと BNC デジタルケーブルに順次 NRF-005T の処理を行いつつ、試聴してきました。

聴きどころは、ピアノを中心とした演奏の緊密な構成に、パティアシュベリのストラディヴァリウスエングルマンの質感とチェロとコントラバスの明瞭さにあります。気心の知れた仲間内の、一般の大きなホールではない、少人数の聴衆の前でのコンパクトな演奏会で、そういった雰囲気がよく出ています。上記のようなオーディオ手法の積み重ねのプロセスの成果も追跡できました。

4. まとめ

シューベルトの「鱒」の最新の収録ですが、音も良く聴き応えのある演奏で、仮想アースと NRF-005T の処理の効果も確認できました。

以上